

平成 1 6 年度 病害虫発生予報 第 2 号

平成 1 6 年 4 月 2 7 日
発表：福島県病害虫防除所

主要病害虫の発生状況と発生予想（ 多 やや多 並 やや少 ・少 - 対象外）

作物名	病害虫名	発生量 （ 平 年 比 ）				予 想 発 生 量 （ 平 年 比 ）				備 考
		県北	県南	会津	浜	県北	県南	会津	浜	
水 稲	いもち病 (育苗～田植期)	-	-	-	-					
	苗立枯病 (ムレ苗を含む)	-	-	-	-					
	イネもみ枯細菌病、 苗立枯細菌病	-	-	-	-					
	イネムシ、ゾウムシ	-	-	-	-					
	イネハダニ類	-	-	-	-					
	イネハダニ類	-	-	-	-					
麦 類	赤かび病	-	-	-	-					
リ ン ゴ	アブラムシ類				-				-	
モ モ	モモハモグリガ	・	-	-	-	・	-	-	-	
果 樹 共 通 "	ハマキムシ類				・				・	
	カメムシ類									
イ チ ゴ	うどんこ病			-				-		
	ハダニ類			-				-		
	アブラムシ類			-				-		
	アザミウマ類			-				-		
	オンシツコナジラミ			-				-		
キュウリ (冬春)	うどんこ病			-				-		
	べと病			-				-		
	ハダニ類			-				-		

予報の根拠の中で（＋）は多発要因、（－）は少発要因、（±）は並発生要因であることを示す。

発生予報と防除対策

A 普通作物

イネいもち病(育苗～田植期)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	並			

1 予報の根拠

天候予報（4月23日発表1か月予報）によると、気温は平年並か低いと予想されている（±）。

2 防除上注意すべき事項

被害稲わらやもみ殻などは葉いもちの伝染源となるので、育苗床への使用や周辺への放置を避ける。

育苗温度管理および水管理はこまめに行い、過湿や過乾燥を避ける。

いもち病を対象とした箱施薬剤は、播種時から移植当日まで施用が可能であるが、害虫との同時防除剤では、施用時期が単剤と異なる場合があるので注意する。（病害虫防除情報ファクスサービス「ファピィ」情報番号21番を参照）

育苗期間中に発病が見られた場合、葉いもち防除剤を散布する。

イネ苗立枯病 (リゾプス属菌,ファリウム属菌, ピシウム属菌,トリコテリウム属菌)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	やや多			

1 予報の根拠

天候予報によると、気温は平年並か低いと予想されている（＋）。
省力的な育苗技術の普及とともに、こまめな温度管理と薬剤防除対策が十分に行われなくなっ
てきている（＋）。

2 防除上注意すべき事項

発生してからの防除は困難なので、病虫害防除情報ファクスサービス「ファピィ」情報番号20番
を参照して予防対策に努める。
育苗期間中の極端な温度変化は発生を助長するので、緑化期以降は、昼間28 以上、夜間10 以
下にならないよう気温の変動に応じて適切な温度管理を行う。
無加温育苗等で、保温資材による被覆が長時間にわたると高温・過湿になりやすく、発生を助長
するので注意する。
水管理はこまめに行い、過湿や過乾燥を避ける。

イネもみ枯細菌病、 苗立枯細菌病	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	やや多			

1 予報の根拠

水稻播種期以降気温が高く推移した。天候予報によると、気温は平年並か低いと予想されている
（±）。
省力的な育苗技術の普及とともに、こまめな温度管理と薬剤防除対策が十分に行われなくなっ
てきている（＋）。

2 防除上注意すべき事項

緑化期以降の高温・過湿は、二次感染を助長するので避ける。
発病が見られたら速やかに発病苗を隔離し、二次感染を防ぐ。
発病苗は移植せず、廃棄処分する。

イネヒメハモグリバエ	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	やや多			

1 予報の根拠

天候予報によると、気温は平年並か低いと予想されている（＋）。
4月下旬に実施した調査では、水田周辺のイネ科雑草における産卵葉率は過去4年に比べやや多
かった（＋）。

2 防除上注意すべき事項

苗が軟弱徒長の場合、育苗箱施薬を行うと薬害が出やすいので使用せず、本田期防除で対応する。
徒長苗の移植や深水管理は発生を助長するので、そのような水田では特に発生に注意する。

イネミズゾウムシ	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 時 期	並			
	発 生 量	やや少			

1 予報の根拠

4月の気温が高く推移したが、天候予報によると、気温は平年並か低いと予想されている。
近年、いもち病と同時防除が可能な育苗箱施薬が増加している（－）。

2 防除上注意すべき事項

例年発生が多いところでは育苗箱施薬を行う。ただし、苗が軟弱徒長の場合は薬害が出やすいの
で使用せず、本田期防除で対応する。
成虫を対象として散布剤を本田に施用する場合は、成虫の水田侵入盛期に行う。田植前に水田周
辺で成虫の発生が見られる場合、水田侵入盛期は田植の約1週間後である。

イネドロオウムシ	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	やや多			

1 予報の根拠

前年の発生量は平年より多く、越冬成虫量も多いと考えられる（＋）。

2 防除上注意すべき事項

昨年発生の多かったところでは、育苗箱施薬を行う（病害虫防除情報ファクスサービス「ファピィ」情報番号21番を参照）。その場合、苗が軟弱徒長の場合は薬害が出やすいので使用せず、本田期防除で対応する。

ムギ類赤かび病	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 時 期	並～やや早い			
	発 生 量	やや多			

1 予報の根拠

出穂期は平年並からやや早いと予想されている。

天候予報によると、気温は平年並か低く、降水量は日本海側で平年並、太平洋側で平年並か少ないと予想されている（+）。

2 防除上注意すべき事項

赤かび粒の混入率が0.0%を超えた麦類については、食用としては規格外に格付けされるので、薬剤防除を必ず実施する（「ファピィ」情報番号22番参照）。

感染時期は出穂期から開花盛期である。この時期に降雨があると発病が多くなる。

刈り取り後は雨にあてないように注意する。

収穫に当たっては事前に赤かび病の発生状況を把握し、被害が認められるほ場では健全なほ場の麦と仕分けして、収穫・乾燥をする。

共同乾燥施設においては荷受け時にチェックを行う。赤かび病の被害粒が確認された場合は仕分けを行い、別に乾燥調製を行う。

B 果 樹

表 1 生育概況（果樹試験場 4月26日現在）

樹 種	品 種	開花始期（月・日）		開花盛期（月・日）	
		本 年	平 年	本 年	平 年
リンゴ	つ が る	4.19	4.27	4.24	5. 1
	ふ じ	4.19	4.28	4.24	5. 3
モ モ	あかつき	4. 9	4.17	4.15	4.22
	ゆうぞら	4.11	4.18	4.15	4.23
ナ シ	幸 水	4.16	4.24	4.20	4.28
	豊 水	4.12	4.20	4.17	4.25

1 果樹の生育状況と開花予測

開花盛期の平年比は、リンゴでは「つがる」が7日、「ふじ」が9日早い。モモでは「あかつき」が7日、「ゆうぞら」が8日早い。ナシでは「幸水」、「豊水」ともに8日早い。

発生予報と防除対策

アブラムシ類（リンゴ） （花叢寄生）	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発生時期	早い			-
	発 生 量	多い			-

1 予報の根拠

リンゴの生育は8日程度早いため害虫の発生も早いと見込まれる。

平均寄生花叢率は、各地方とも平年よりやや多かった（+）。

寄生ほ場割合は平年より多く、特に県北と会津地方で顕著であった（+）。

2 防除上注意すべき事項

花叢に寄生したアブラムシの種類は、リンゴコブアブラムシとリンゴクビレアブラムシが主であった。

発生量が多い園では落花直後に硫酸ニコチン 1,000倍を使用する。代替剤としてネオニコチノイド剤（モスピラン水溶剤 4,000倍またはバリアード顆粒水和剤 4,000倍）を使用してもよい。なお、両剤は蚕に対する毒性が強いので使用規制地域では使用しない。

モモハモグリガ（モ モ）	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	少	-	-	-

注：神社等の北または西向きの壁面での越冬成虫数を調査。

1 予報の根拠

壁面における越冬成虫数は平年より少なかった（-）。

2 防除上注意すべき事項

モモハモグリガの防除適期は、4月 6半旬～ 5月 2半旬と見込まれる。

発生が多い園では、落花10日後に病虫害防除基準（平成15年度版 - 訂正版 - ）にしたがい薬剤を使用する。

ハマキムシ類（果樹共通） （花叢寄生）	地 方	県 北	県 南	会 津	浜 通 り
	発生時期				
	早い				
	発 生 量	並	やや少	少ない	

1 予報の根拠

各果樹の生育は平年より 7～ 9日程度早いため、害虫の発生も早いと見込まれる。

リンゴでは県北地方で花叢への寄生が認められたが、平年並であった（±）。

被害は場率は平年に比べ県北地方で並（±）、県南地方でやや少なかった（-）。

ナシでは各地方とも花叢への寄生が確認できなかった（-）。

2 防除上注意すべき事項

発生が多い園では、B T 剤または I G R 剤を使用する。両剤は蚕に対する毒性が強いので使用規制地域では、ダースバン水和剤25 1,000倍を使用する。

本年は果樹の生育が早くハマキムシ類の発生も早いと見込まれるため、ハマキムシ類の越冬世代が羽化する前（5月上旬頃）までに、遅れないよう複合交信攪乱剤を設置する。

カメムシ類（果樹共通）	地 方	県 北	県 南	会 津	浜 通 り
	発 生 量	やや多	やや少	やや多	やや少

注：10月下旬に神社等の建造物内に簾を立て掛けておき、1か月後に簾に侵入した個体数を計測。

1 予報の根拠

クサギカメムシの越冬量は会津地方でやや多（+）、県南及び浜通り地方ではやや少であった（-）。

県北地方の越冬虫数は平年並であったが、他の地方に比べ絶対量は多い（+）。

2 防除上注意すべき事項

カメムシ類の食草となるので、果樹園周辺のキリ、クワ、クズ、ハギは適切な管理をする。

越冬成虫の飛来が確認されたら、病虫害防除基準（平成15年度版 - 訂正版 - ）にしたがい薬剤を使用する。

その他病虫害の発生動向と防除対策

腐らん病（リンゴ）

依然として、会津地方では胴腐らん、その他の地方では枝腐らんが確認される。被害部は早急にせん除、胴腐らんは病患部を削り取り、せん除した枝及び削り取った部分は園内に放置せず園外に持ち出し処理する。

摘果が遅れると「ふじ」では果梗が残りやすく本病の感染部位となる。よって、早期摘果に心がける（摘果剤の利用も有効である）。

詳しくは、うつくしま農林水産情報ネットホームページ（<http://www.aff.pref.fukushima.jp/>）を参照のこと。

せん孔細菌病（モモ）

全般的に昨年秋期の発生が多かったため、越冬病原菌密度は高いと推定される。落花10日後に病虫害防除基準（平成15年度版 - 訂正版 - ）にしたがい薬剤を散布する。なお、平成16年 4月21日付けで 6 - 6 式亜鉛ボルドー液用の生石灰として、カネジユウ印ボルドー液用粉末生石灰（井上石灰工業株式会社）が登録された。6 - 6 式亜鉛ボルドー液用の生石灰は本剤に限り使用可能であるので注意する。

また、春型枝病斑は見つけ次第せん除する。

黒星病（ナシ）

耕種的防除として、りん片、果叢基部、葉、果実、新梢など発病した部位は摘除し、土中に埋めるか園外に持ち出し処理する。開花直前と落花直後の散布間隔が開かないように注意し、病虫害防除基準（平成15年度版 - 訂正版 - ）にしたがい E B I 剤を使用する。

主要鱗翅目類（果樹共通）

各果樹の生育が平年より 7～9 日程度早いため、主要な鱗翅目害虫の発生も同様に早いと見込まれる。ケムシ類が多い場合は、落花直後に病虫害防除基準（平成15年度版 - 訂正版 - ）にしたがい薬剤を使用する。

クワコナカイガラムシ（果樹共通）

クワコナカイガラムシの発生が多い場合には、5 月中旬頃に病虫害防除基準（平成15年度版 - 訂正版 - ）にしたがい薬剤を使用する。

C 野 菜

ハダニ類（イチゴ）	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	並	やや多	-	やや多

1 予報の根拠

4 月上旬の調査では、例年と比較して県南と浜通りで発生ほ場率が高く、さらに浜通りで寄生程度の高いほ場も散見された（+）。

2 防除上注意すべき事項

薬剤散布にあたっては、抵抗性系統の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連続使用しないように注意する。

防除対策は、「ファピィ」情報番号43番を参照する。

アザミウマ類（イチゴ）	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	並		-	やや多

1 予報の根拠

4 月上旬の調査では、例年と比較して浜通りで発生ほ場率および寄生花率が高かった（+）。県内の主な寄生種はミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマで、果実被害の発生しているほ場が散見された。

2 防除上注意すべき事項

薬剤散布にあたっては、抵抗性系統の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連続使用しないように注意する。

防除対策は、「ファピィ」情報番号43番を参照する。

ハダニ類（冬春キュウリ）	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	やや多		-	やや多

1 予報の根拠

4 月上旬の調査では、例年と比較して発生ほ場率が高く（+）、一部寄生葉率の高いほ場が見られた。

2 防除上注意すべき事項

薬剤散布にあたっては、抵抗性系統の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連続使用しないように注意する。

防除対策は、「ファピィ」情報番号50番を参照する。

その他病虫害の発生動向と防除対策

褐斑病（冬春キュウリ）

4 月上旬の調査において、発病葉率は低いものの一部ほ場で発生が確認された。この時期の調査では、過去 5 年確認されなかった。本病は、高温多湿で草勢が低下したとき発生が多くなるので、今後の発生動向には注意が必要である。

防除対策については、「ファピィ」情報番号50番を参照する。

天候予報

向こう 1 か月（平成 16 年 4 月 23 日仙台管区气象台発表）の平均気温は平年並か低い、降水量は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で平年並か少ない、日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で平年並か多い見込みである。

病虫害防除情報ファクスサービス「ファピィ」

情報分類	情報発表日	情報番号	情報提供機関
総合案内	2004年4月27日	0-0404-06	福島県病虫害防除所
情報タイトル			枚数
病虫害防除情報ファクスサービス「ファピィ」の総合案内			1
			作物名
			共通

情報の種類と情報番号

情報の種類	番号	発表日	情報の内容	枚数
総合案内	0	4月27日	情報の種類、内容、発表日を示す	1
発生予察情報			(本県で発表した最新の発生予察情報など)	
定期予報	1 0	4月27日	平成16年度発生予報第2号	6
定期予報	1 1	4月13日	平成16年度発生予報第1号	4
特殊報	1 6	10月15日	平成15年度発生予察特殊報1号	2
防除情報			(病虫害の具体的発生データや防除対策など)	
水 稲	2 0	3月 8日	水稻の育苗期病害防除対策について	4
"	2 1	4月 9日	田植までの病虫害防除対策(育苗箱施薬剤)	2
麦 類	2 2	4月12日	麦類の赤かび病防除対策	1
"	2 3	4月23日	麦類の赤かび病防除対策2	1
果 樹	3 0	3月 5日	果樹病虫害総合(3/5発表の情報をまとめてあります)	5
"	3 3	3月 5日	ナシ黒斑病の越冬状況と防除対策	1
"	3 5	3月 5日	クサギカメムシの越冬状況	2
"	3 6	3月 5日	ハダニ類の越冬状況と防除対策	2
野 菜	4 3	4月16日	イチゴの病虫害の発生状況と防除対策	2
"	5 0	4月19日	冬春キュウリの病虫害の発生状況と防除対策	2
"	6 3	4月28日	キュウリホモプシス根腐病の発生状況と防除対策	1
その他	6 6	11月28日	イチゴにおける天敵を利用したハダニ類防除	2
"	6 7	4月12日	牧草におけるムギダニの発生状況と防除対策	1
農 薬	7 1	3月18日	平成15年10月～平成16年2月に登録が失効した農薬	6
"	7 6	11月25日	農薬の容器又は包装の誤表示について(その2)	4
"	7 7	11月 6日	住宅地等における農薬使用について	2
"	7 8	6月 6日	展着剤の使用について	1
"	7 9	8月27日	農薬の容器又は包装の誤表示について	5
気象情報	9 0	金曜夕方	金曜発表の1ヶ月予報、金曜発表の週間予報	2

は最新の情報であることを、 はこれまでに発表した情報であることを示しています

F A X の操作方法

お手元のF A Xから「024(923)2010」に電話する。

ダイヤル回線の場合のみ「トーン(*)」または「PB」ボタンを1回押す(入力信号をプッシュ信号に切り替える。ただし機種によって切り替えボタンが異なりますので、F A Xの取り扱い説明書を参照ください)。

音声案内に従い^{注1)}、取り出したい情報番号^{注2)}に続けて、「シャープ(#)」を押す。

「ビー」の音がしてから、通信ボタン(「受信」や「スタート」ボタンなど)を押す。

受話器を置く。

注1) 音声案内中でも、情報番号の入力はできます。

注2) 情報番号がわからない場合でも、F A Xの通信ボタンを押すだけで、総合案内の情報を取り出せます。

情報内容への質問や要望は病虫害防除所までご連絡ください。

TEL: 024-938-4242 FAX: 024-923-2012 e-mail: kfsm0301@sp.jpfn.ne.jp

病虫害防除情報は、ファクスサービス(FAX: 024-923-2010)で取り出せます。また病虫害防除所ホームページ(アドレス <http://www.aff.pref.fukushima.jp/fappi/index.html>)でも見る事が出来ます。